

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	倫理	
科目基礎情報							
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	創造工学科（機械コース）		対象学年	1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	高等学校『新倫理』最新版（菅野覚明他著 清水書院刊）						
担当教員	齋藤 和久						
到達目標							
現代社会にも影響を与えている、倫理・宗教観および、それらの背景にある哲学思想の概要を理解することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
様々な宗教の特徴を説明できる力	三大宗教や著名な民族宗教等の特徴を、何も見ずに正確に説明することができる。		仏教・キリスト教・イスラム教の教義の相違点を指摘することができる。		宗教的な考え方の特徴を、何一つ説明することができない。		
ギリシャ哲学の特徴を説明できる力	ギリシャ哲学者達の思想的特徴を何も見ずに説明することができ、かつ、哲学者間における思想的影響や相違についても説明できる。		ギリシャ哲学者達の思想的特徴を何も見ずに説明することができる。		ギリシャ哲学者達の思想的特徴を、何一つ説明することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
(B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。							
教育方法等							
概要	代表的な哲学・宗教の概観。						
授業の進め方・方法	座学・講義形式。担当教員が哲学者や思想家の業績、諸宗教の特徴等について、黒板（またはスライド）に要点をまとめながら説明する。教材は、教科書『新倫理』に準拠した内容とする。						
注意点	授業内容は記録しておき、各自で授業内容を再整理できるよう努める。“総合評価”は、後期中間試験40%、前期末試験40%、提出課題20%の割合で行う。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		2週	『倫理』教科概説		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		3週	「人間としての自覚と生き方」ユダヤ教とイエスの思想		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		4週	キリスト教の世界宗教への展開		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		5週	イスラーム		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		6週	インドの古代思想と仏陀の思想		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		7週	仏教の展開1		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
	8週	仏教の展開2		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。			
	4thQ	9週	中間試験		まとめと試験		
		10週	「国際社会に生きる日本人の自覚」日本の風土と思想		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		11週	「人生における哲学」ギリシャ神話・自然哲学・ソフィスト		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		12週	ソクラテス		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		13週	プラトン		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		14週	アリストテレス		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
		15週	ヘレニズムの思想		文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。		
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。		3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。		3	

				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題・レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	10	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	10	20